

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
麻生建築&デザイン専門学校		平成9年11月26日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町 3-83 (電話) 0948-25-5999																			
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	プロダクトデザイン科			平成25年文部科学省告示第3号	—																			
学科の目的	日用品、家電、自動車などの製品に関する材料、造形、色彩の知識を習得し、機能的で実用性のあるデザインの計画、構想から具現化までの工程を学習する。また、3次元CAD利用技術者試験の取得を目指しながらハイエンドの3次元CADを体得することによりデジタルエンジニアの分野で活躍できる専門技術者を育成することを目的とする。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1980時間	750時間	1470時間	-	-	-																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
80人	22人	2人	2人	6人	8人																				
学期制度	■前期: 4月1日~8月31日 ■後期: 9月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価、3分の2以上の出席が必要																				
長期休み	■学年始: 4月1日~4月8日 ■夏季: 8月7日~9月3日 ■冬季: 12月24日~1月8日 ■学年末: 2月1日~3月31日			卒業・進級条件	単位を取得していること 卒業基準検定を取得している 学年の出席率が90%以上 学生としてふさわしい生活態度																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 各種検定対策補講、数学ゼミ(希望者)			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 自動車メーカー、家具メーカー			主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3次元CAD利用技術者</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>カラーデザイン検定</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>イラストレータ能力認定試験</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	3次元CAD利用技術者	③	15人	10人	カラーデザイン検定	③	15人	12人	イラストレータ能力認定試験	③	15人	8人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																				
	3次元CAD利用技術者	③	15人		10人																				
カラーデザイン検定	③	15人	12人																						
イラストレータ能力認定試験	③	15人	8人																						
■卒業者数 : 15人 ■就職希望者数 : 15人 ■就職者数 : 15人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100%			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
■その他 ・進学者数: 0人			■自由記述欄 第7、8回 御供所灯明コンペティション: 毎年参加、入賞あり 第8回は最優秀賞を獲得 うみなか灯りコンテスト: うみなか賞 1名																						
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成28年4月1日時点において、在学者24名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者24名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 なし			■中退率 0% ■中退防止・中退者支援のための取組 ガイダンス カウンセリング 学生・保護者・担任での三者面談																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を全額免除する。(卒業まで) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数: 0名																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科のホームページURL	http://www.asojuku.ac.jp/act/subject/product/																								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。
 また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためお客様アンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

第1回委員会にてカリキュラムに関する意見収集を行い、学内のカリキュラム編成会議の際に取り入れる。その後、第2回会議にて決定してカリキュラムの報告を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
植田 義孝	ユーデザイン代表	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
三並 恒功	株式会社 PBM 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
上原 淳司	ダイキエンジニアリング 人事部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
合瀬 理栄	国際カラーデザイン協会	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	①
竹口 伸一郎	麻生建築&デザイン専門学校 校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
熊野 学	麻生建築&デザイン専門学校 校長代行	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
今泉 清太	麻生建築&デザイン専門学校 主任	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
高山 裕明	麻生建築&デザイン専門学校 教員	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
稲吉 貴博	麻生建築&デザイン専門学校 教員	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、開催時期は7月初旬、11月下旬を予定

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年 7月 1日 17:45～18:25
 平成28年度 第2回 平成28年11月24日 17:10～17:50
 平成29年度 第1回 平成29年 6月30日 17:00～18:30
 平成29年度 第2回 平成29年11月24日 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

3次元CADソフトを設計業界で主に採用されているCATIA最新バージョンへ集約することでCATIAをより深く学ぶことに関する意見が提案された。このため、3次元CADソフトのうちCREOをCATIA最新バージョンに移行する計画を立てた。H28年度より導入準備を行い、H29年度4月に移行した。H29年度よりCATIA I A, I B, II A, II Bの中で現行バージョンV5と最新バージョンV6の教育を行い企業から求められているレベルのCATIA教育を行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等とのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、将来技術者(建築士など)として活躍するために、学んだ知識やCAD等の技術、コミュニケーション能力等の実務適応能力の確認をおこなうことを目的とする。
現場で活かされる実習を通して、必要な創造力や発想力を養っていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

ユーデザイン設計・植田先生の「デッサン」と「構造・機構の表現」を経験させる助言に従い、「構造・機構の表現」を1年後期の「デザイン概論」授業内にて、「デッサン」は2年前期の特別補講にて実施し、デッサンは植田先生の講評も受けた。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
プロダクトデザイン 実習Ⅱ A・B	プロダクトデザインの基本的概念を理解する。プロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。	ユーデザイン設計

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という)の基本方針

「職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

3D Experience Academic on the Cloud ハンズオントレーニング(CATIA 3DEXPERIENCE研修)

実施日:2016年12月21日(水曜日)主催:ダッソー・システムズ株式会社

内容:CATIA 3DEXPERIENCE基礎研修、旧バージョンであるCATIA V5との違いを把握し新要素を学ぶ

目的:CATIA 3DEXPERIENCE授業導入のため教員が技術向上を目的に参加

CATIA科目担当予定教員(専任教員2名,兼任教員1名が参加)

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「ID(インストラクショナルデザイン) I

講師:岡村 慎一氏(専門学校YICグループ)

目的:インストラクショナルデザインを用いた体系的なカリキュラム、シラバスの開発方法を習得する。

内容:インストラクショナルデザインの概要、学習目標の明確化、効果測定と評価。

日程:2016年9月7日 9:00~17:30

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

CATIA Imagine and Shape Essentials研修 CATIA Assembly Design Fundamentals研修 (計画)

目的:CATIA 3DEXPERIENCEの技術向上

科目担当教員が参加(予定)

テクニカルイラスト研修(構造機構) (計画)

目的:CATIA 3DEXPERIENCEの技術向上

科目担当教員が参加(予定)

CATIA 3DEXPERIENCE内にCATIA Composerの導入を予想して研修計画を立案。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「発達障害の理解について」

講師:桑原 由美子 (NPO法人 発達障がい者支援 ゆあしっぷ 理事長)

目的:学生面談・学生指導における基本的知識を習得する。

内容:発達障害とは何かを理解し、学生との関わり方の基本について学ぶ。

日程:2017年4月26日 16:00~17:30

2017年8月日(※計画)「発達障がい者の対応について」(児童発達支援センターこだま 緒方よしみ園長)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。

また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試

(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検評価報告書に基づく評価項目(中項目)は全て適合の判定結果であった。
 その中で、地階の喫煙コーナーと駐輪場の分煙化の促進についての要望があり、喫煙コーナーを換気の良い端隅に移動することで、喫煙者と非喫煙者の混合を防ぐように改善した。

永田 和弘	在校生保護者	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	保護者
森 大之	H28年度卒業生	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生
川藤 勝治	博多区博多駅南第4区自治会 自治会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	地域住民
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
横山 猛	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 副支社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
戸田 康仁郎	株式会社 大設計 総務部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
三並 恒功	株式会社 PBM 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
上原 淳司	株式会社 ダイキエンジニアリング 人事部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
平野 孝幸	福岡県立 福岡工業高等学校 校長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	高等学校関係者
太田 昌宏	愛知産業大学 准教授	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asoiuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	インドネシアのBINUS大学、留学生専用学生寮
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/act/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 プロダクトデザイン科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			AutoCAD A	2次元CADの基本的概念を理解すると共に、2次元CAD (AutoCAD) のコマンドを習得する。CAD利用技術者試験2級合格を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
○			AutoCAD B	2次元CADの基本的概念を理解すると共に、2次元CAD (AutoCAD) のコマンドを習得する。CAD利用技術者試験2級合格を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			一般教養 I	一般常識及びSPI対策に取り組む。また、SPI試験にペーパーテスト及びWebテストがあり両方に対応できるよう学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			3DCAD検定対策 A	3DCADを扱う上で必要な基礎知識や周辺機器知識概念の習得を目的としている。また、3次元CAD利用技術者試験2級合格を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
○			3DCAD検定対策 B	3DCADを扱う上で必要な基礎知識や周辺機器知識概念の習得を目的としている。また、3次元CAD利用技術者試験2級及び準1級(任意)の合格を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			ビジネスマナー A	さまざまな職務のベースとなり、ビジネスを語る上で欠かせない必須知識、社会で必要なビジネスマナーを学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			ビジネスマナー B	さまざまな職務のベースとなり、ビジネスを語る上で欠かせない必須知識、社会で必要なビジネスマナーを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			3次元CAD IA	3次元CADソフトウェアの基礎知識及び操作方法的の習得を目的とする。	1後	60	4	○			○			○	
○			3次元CAD IB	3次元CADソフトウェアの基礎知識及び操作方法的の習得を目的とする。	1後	60	4	○			○			○	
○			就職実務 IA	就職活動においての実践的能力を身につける。就職活動のスタートにあたり、準備を行い、早目の活動開始を促す。	1前	30	2	○			○			○	
○			就職実務 IB	就職活動においての実践的能力を身につける。就職活動のスタートにあたり、準備を行い、早目の活動開始を促す。	1後	30	2	○			○			○	

(工業専門課程 プロダクトデザイン科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Photoshop/ Illustrator I A	アプリケーションの操作方法を身につけ、自分のアイデアを、より早く、正確に表現できる力を身につける。	1前	30	2		○		○		○		
○			Photoshop/ Illustrator I B	アプリケーションの操作方法を身につけ、自分のアイデアを、より早く、正確に表現できる力を身につける。	1後	30	2		○		○		○		
○			色彩学 A	色彩の基本的知識の習得と、配色知識および、色彩検定3級取得を目標とする。	1前	30	2	○			○				○
○			色彩学 B	色彩の基本的知識の習得と、配色知識および、色彩検定2級取得を目標とする。	1後	30	2	○			○				○
○			プロダクトデザイン実習 I A	プロダクトデザインの基本的概念を理解するプロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。	1前	60	4		○		○				○
○			プロダクトデザイン実習 I B	プロダクトデザインの基本的概念を理解するプロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。	1後	60	4		○		○				○
○			表現技法 I A	自分の発想、考え方を、形に表現できる力を身につける 鉛筆デッサンを中心にものの正しい見方を学ぶ。	1前	60	4		○		○				○
○			表現技法 I B	手書きを中心としたデザイン力を身につけ自分のアイデアを、より早く、正確に表現できる力を身につける。	1後	60	4		○		○				○
○			パソコン演習	Excelの基礎知識と基本操作を習得する。情報リテラシーを身につける。Excel表計算処理技能認定試験3級取得を目標とする。	1前	30	2		○		○			○	
○			デザイン概論	デザインという概念、デザイン関連職の種類と内容、デザインが社会にもたらす価値、デザイナーに必要な能力と知識等を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			機械製図 A	製図総則 (JIS Z 8310-1984) 及び機械製図の諸規格について十分理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			機械製図 B	製図総則 (JIS Z 8310-1984) 及び機械製図の諸規格について理解する。機械製図・機械設計の基礎的な知識を身につける。	1後	30	2	○			○			○	

(工業専門課程 プロダクトデザイン科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CATIA I A	企業との提携により作成しているCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について基礎から学習する。	1前	60	4		○		○			○	
○			CATIA I B	企業との提携により作成しているCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について基礎から学習する。	1前	60	4		○		○			○	
○			GCB I	グローバルシティズンの育成をめざし、感謝心と思いやりをもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○			○	
○			GCB II	グローバルシティズンの育成をめざし、ビジョンと志をもった人材を養成する。	1後	15	1	○			○			○	
○			工業数理基礎	単位やSI接頭語及び機械工学を学習するために必要な基礎物理も含め学習する。	1後	30	2	○			○			○	
		○	数学ゼミ A (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	1前	《15》	《1》	○			○			○	
		○	数学ゼミ B (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	1後	《15》	《1》	○			○			○	
○			機械設計 A	機械設計及び機械製図の基礎的な知識を身につける。	2前	30	2	○			○			○	
○			機械設計 B	機械設計及び機械製図の基礎的な知識を身につけ機械製図が自ら描けるよう学習する。	2後	30	2	○			○			○	
○			機械材料 A	機械材料の種類や特徴を学習し機械設計の際に材料を判断できる基礎知識を習得する。	2前	30	2	○			○			○	
○			機械材料 B	機械材料の種類や特徴を学習し機械設計の際に材料を判断できる基礎知識を習得する。	2後	30	2	○			○			○	
○			一般教養 II	一般常識及びSPI対策に取り組む。また、SPI試験にペーパーテスト及びWebテストがあり両方に対応できるよう学習する。	2前	30	2	○			○			○	

(工業専門課程 プロダクトデザイン科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務ⅡA	就職活動のスタートにあたり、準備を行い、早目の活動開始を促す。社会人としての意識マナーをしっかりと見につける。	2前	30	2	○			○	○			
○			就職実務ⅡB	就職活動のスタートにあたり、準備を行い、早目の活動開始を促す。社会人としての意識マナーをしっかりと見につける。	2後	30	2	○			○	○			
○			プロダクトデザイン実習ⅡA	プロダクトデザインの一貫した過程を一つの作品にまとめる。卒業制作と連携し、個人別の課題に取り組む。	2前	90	6		○		○			○	○
○			プロダクトデザイン実習ⅡB	プロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。プロダクトデザイナーに必要な技術、人間性を身につける。(納期、期限)	2後	90	6		○		○			○	○
○			3次元CADⅡA	3次元CADソフトウェアの応用操作を学ぶ。主にサーフェスマデリングの方法、トップダウン設計手法について学習する。	2前	60	4		○		○			○	
○			3次元CADⅡB	3次元CADソフトウェアの応用操作を学ぶ。主にサーフェスマデリングの方法、トップダウン設計手法について学習する。	2後	60	4		○		○			○	
○			CATIAⅡA	企業提携によるCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について学習し、CATIA技術者認定資格を目標とする。	2前	30	2		○		○			○	
○			CATIAⅡB	企業提携によるCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について基礎から学習し、CATIA技術者認定資格を目標とする。	2後	30	2		○		○			○	
○			卒業制作A	卒業制作のためのデザインプロセスを学習しパネル制作及びモデル制作を行う。	2前	60	4		○		○			○	
○			卒業制作B	卒業制作のためのデザインプロセスを学習しパネル制作及びモデル制作を行う。	2後	90	6		○		○			○	
		○	数学ゼミA(選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	2前	《15》	《1》	○			○			○	
		○	数学ゼミB(選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	2後	《15》	《1》	○			○			○	

(工業専門課程 プロダクトデザイン科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		プロダクトデザイン概論A	プロダクトデザインの専門知識を深め、プロダクトデザイナーに必要な技術、人間性を身につける。 ※デザイン専攻	2前	30	2	○			○		○		
	○		プロダクトデザイン概論B	プロダクトデザインの専門知識を深め、プロダクトデザイナーに必要な技術、人間性を身につける。 ※デザイン専攻	2後	30	2	○			○		○		
	○		グラフィックデザイン概論	プロダクトデザイン以外のWEBデザインやDTPデザインやイラストといった、グラフィックデザインの基礎を学ぶ。 ※デザイン専攻	2前	30	2		○		○		○		
	○		表現技法ⅡA	自分の発想、考え方を、形に表現できる力を身につけ、ポートフォリオの素材となるような作品を作成する。 ※デザイン専攻	2前	30	2		○		○			○	
	○		表現技法ⅡB	ものの正しい見方を学び、手書きを中心とした表現で自分のアイデアを、早く正確に表現できる力を身につける。 ※デザイン専攻	2後	30	2		○		○			○	
	○		Photoshop/ Illustrator ⅡA	主にIllustratorの基本操作を習得。作品パネルの制作や、就職面接用のポートフォリオ制作ができるようになる。Illustratorクリエイター能力認定試験のスタンダード合格レベルのスキルを身につける。 ※デザイン専攻	2前	30	2		○		○		○		
	○		Photoshop/ Illustrator ⅡB	アプリケーションの操作方法を身につけ、自分のアイデアを、より早く、正確に表現できる力を身につける。 ※デザイン専攻	2後	30	2		○		○		○		
	○		機械工学A	ものづくりの基礎となる機械工学(材料力学・機械力学)の基礎を学習する。 ※設計開発専攻	2前	《30》	《2》		○		○		○		
	○		機械工学B	ものづくりの基礎となる機械工学(流体力学・熱力学)の基礎を学習する。 ※設計開発専攻	2後	《30》	《2》		○		○		○		
	○		3DCAD制作A	デザイン・納期を意識した3Dモデル作成のためのテクニック習得。 ※設計開発専攻	2前	《30》	《2》		○		○		○		
	○		3DCAD制作B	デザイン・納期を意識した3Dモデル作成のためのテクニック習得。 ※設計開発専攻	2後	《30》	《2》		○		○		○		
	○		CAM A	CAMの基本操作を習得し3DCADで作成したデータを用いて作品制作を行う。 ※設計開発専攻	2前	《30》	《2》		○		○		○		

(工業専門課程 プロダクトデザイン科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		CAM B	CAMの基本操作を習得し3DCADで作成したデータを用いて作品制作を行う。※設計開発専攻	2後	《30》	《2》		○		○		○		
	○		工学実験	実験やものづくりを通して機械工学の内容を学習する。※設計開発専攻	2後	《30》	《2》		○		○		○		
合計						61科目		1980単位時間 (132単位)							

※選択必修科目は※デザイン専攻(7科目)か※設計開発専攻(7科目)のどちらかを選択する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①最終学年の終了時において、履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格し、当該学年における単位数を取得していること。 ②出席率が当該学年の出席時間数の90%以上であること。 ③国土交通省が定めた規定の時間を満たした者 ④学生としてふさわしい生活態度であること。 上記基準を満たせない者は、他の成績科目、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。